

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年3月23日
学)まゆみ学園 森の幼稚園

1. 本園の教育目標

「自分の力で考え、行動できる子どもを育てる」

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領を踏まえ、子どもの主体性を大切にされた保育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子どもの主体性を大切にされた保育実践	A	<p>【デイリープログラムの変更に伴う遊びの更なる充実】</p> <p>毎日、全園児で1時間以上遊ぶことができるようになったことで、日々の遊びを積み重ねていくことができ、「昨日の続き」をゆったりと楽しめるようになった。また、子どもの探求する姿も昨年度よりも多く見られるようになった。朝の会などで遊びの共有をすることで、子ども達の「やってみたい！」の引き出しが増え、遊びやクラス活動の広がりが見られた。</p> <p>【子ども主体の行事の取り組みの検討と実践】</p> <p>教師間で改めて行事のねらいや内容を検討し、目標を共有することで、子どもの育ちを大切にされた活動に繋げることができた。また園としての行事に対するねらいや思いを保護者の方に配布物やスライドなどで伝えることで、子どもの育ちを共有することができた。</p>
2	自然活動の充実	A	<p>今年度初めての試みとして、園庭で1日過ごす「森の日」を各クラス2回行った。1日を通して「森」で過ごすことで、朝から昼過ぎの時間の流れを感じ、自然の中で過ごす心地良さを感じる経験ができた。自然物を使った制作や焚火を囲んでみんなでおやつを食べる経験など、新たな自然の活かし方を知り、興味の幅が広がった。初年度だったため、教師主導の提案や活動が多かったが、来年度は子どもの様子に合わせて、さらに子どものやりたいことなどを取り入れていきたい。</p>
3	公開保育を通じた保育の質向上	A	<p>全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が行う公開保育を活用した幼児教育の質向上システム「ECEQ(Early Childhood Education Quality System)」を行ったことで、公開保育に向けた事前の話し合いや園内研修を通じて職員それぞれが自分の思いを言語化していく過程の中で、個人の考えや思いが整理されるとともに、他の職員が感じている自園の良さや課題を共有することができた。また、公開保育を通じて、参加者から様々なご意見を頂いたことで、自園の良さや課題を知ることができ、保育の質の向上に繋げていくことができた。</p>
4	火災、地震時の対応、避難方法を園児、教職員間で共有する	A	<p>今年度は札幌市において比較的大きな地震が発生したこともあり、様々な場面で地震が起きた時を想定した避難訓練を行うことで、地震時の安全確保行動や避難方法を園児、教職員間で共有することができた。</p>

	評価項目	評価	取り組み状況
5	通園バスの安全な運行	A	定期的な運行経路の点検、日々のアルコールチェック、降車後の園児の所在確認の徹底、3台体制に伴う安全な乗降方法の検討を行い、通園バスの安全な運行に努めた。
6	感染症対策の実施	A	「手洗い」、「消毒」、「換気」等、基本的な感染症対策を行った。
7	家庭との情報共有	A	クラスだより、ホームページ、家庭連絡、個人懇談により園での子ども達の様子や育ちを保護者と共有できるよう努めた。特に今年度から始めたInstagram は令和8年1月末の時点で、投稿数105件、フォロワー135名となり、家庭や地域への重要な情報発信ツールとなった。一方、幼稚園ホームページに掲載しているフォトアルバムと Instagram の内容が重複することもあり、情報の効率的かつ効果的な発信方法を今後、検討していきたい。
8	園の教育内容や園児の成長を理解して頂くための参観の実施	A	毎年行っているクラス活動参観、自由遊び希望参観の実施に加え、今年度はおはなし発表会当日に、おはなし発表会のねらいや園児の発表会当日までの活動について、写真や動画を用いた説明会を行い、保護者に園児の成長を理解して頂けるよう努めた。
9	幼小連携の推進	A	教頭及び年長児担任が年2回実施された幼保小連携推進協議会へ参加し、小学校との連携を行った。また、互いに保育(授業)参観を行った他、年長児と小学校1年生との交流会を実施したことで、年長児及び1年生の育ちを共有することができ、互いの教育活動への理解を深めることが出来た。年長児と小学校1年生のカリキュラムの接続が今後の課題である。
10	預かり保育の実施	A	今年度から預かり保育の開所時間が延長したことに伴い預かり保育を利用する園児が安心して過ごせるよう、預かり保育の内容や受け入れ体制の検討を行った。今後は、こどもをまんなかに置きながらも、できる限り共働き家庭に配慮した年間行事の計画を行う等の対応も行っていく。
11	未就園教室の実施	A	2歳児クラス「プレイルーム」(年60日)、2歳児親子教室「森のひろば」(年20日)、1・2歳児親子教室「キッズパーク」(年10日)を実施し、地域の子育て支援に努めた。子どもだけが参加する2歳児クラス「プレイルーム」については、昨年度から実施日数を10日増やした他、より2歳児の発達段階を踏まえた保育内容となるよう園長、教頭、及び担当保育者が他園の2歳児クラスを見学し、保育内容の検討を行った。次年度からは開催日数をさらに10日増やす他、「遊び中心」のデイリープログラムとし、今以上に一人ひとりの想いや欲求、ペースに寄り添い1日の生活を営んでいけるようにサポートしていく。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価

評価	理由
A	<p>今年度は公開保育を実施し、公開保育に向けた事前の園内研修により、例年以上に保育者同士が保育を振り返り、語り合う時間を持てたことにより、保育者一人一人が感じている自園の良さや課題を共有することができた。また、公開保育の参加者からは、「室内・屋外ともに広いスペースを十分に活かしてコーナー分けされており、好きな遊びに熱中できる環境だった」、「園庭も室内もおもちゃや廃材、道具類、掲示物等が丁寧に準備されていた」、「園庭の自然環境は立派な木や高低差があり素敵だった」、「子どもたちが一斉に同じ時間に登園することで自由遊びの時間が一定でゆるやかに感じた」、「先生方の声かけや関わりがとても丁寧で、子どもたちに寄り添っており、子どもたち一人一人を大切にしていると感じた」等、肯定的な意見を多数頂いた。一方で、「雨が降ってもそのまま遊びが継続できると良い」、「生活に慣れている子どもたちが自ら用意、工夫、試せるための環境の余白も必要」等、保育をより良くしていくためのご提案も頂いた。今回の公開保育を通じて改めて認識できた自園の良さは今後も大切にしていきながら、課題については引き続き、教職員で話し合いながら改善に繋げていきたい。</p>

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	ICT化による業務の効率化	保育の質向上のために、限られた時間の中で子ども理解のための記録の時間、記録をもとにその日の保育を振り返り、翌日以降の保育を計画していく時間、計画に基づき環境を構成していく時間を確保していくために、ICT化による業務の効率化を図っていく。
2	行事の見直し	ここ数年ではおはなし発表会や進級・卒園お祝い会のねらいを教職員間で話し合い、行事の内容をより子どもが主体的に取り組み、喜びや感動、達成感を味わうことができるよう見直してきた。今後は、その他の行事(運動会等)についても、行事のねらいを教職員間で今一度話し合い、個々の行事が子どもにとってどのような意味をもつのかを考えながら、それぞれの教育的価値を十分に検討し、子どもが期待感を持って主体的に取り組めるよう、内容を見直していく。また、年長は、他の学年よりも行事が多く、日々の生活の中に時間の余白が少ないことから、長期の指導計画の中で、子どもの生活に即して必要な体験が得られるように、また遊びや生活が更に意欲的になるよう、行事が終わった後の幼稚園生活も考慮した上で、行事の精選を行っていく。
3	異年齢の関わり	デイリープログラムの変更に伴い、令和6年度まで実施していた異年齢グループによる活動時間が無くなった分、今年度はクラス活動の時間に2学年合同の活動時間を設けるなどして、異年齢の関わりが生まれるよう配慮を行ってきた。来年度はより計画的に異年齢活動の時間を設け、今年度以上に異年齢の関わりが生まれるように活動を計画していく。

*重点的に課題に取り組むため、次年度以降、評価項目を3つに絞り、自己評価を行っていく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

公開保育では、保育者が子ども一人一人を肯定的に受け止め、子どもと関わっている様子が見られた。遊びの環境も丁寧に構成されており、子どもが夢中になって遊ぶ姿が見られた。また、クラス活動では、保育者の提案する活動に主体的に取り組む子どもの姿が見られた。

行事の取り組みについては、行事のねらいをあらためて教職員間で話し合い、それをもとに計画したことで、子どもが主体的に行事に取り組むことができたのではないかと考える。今後はその他の行事についても、限られた時間の中ではあるが、行事のねらいや教育的な価値を十分に検討した上で計画し、これからの時代を生きる子どもたちに必要な力を育てて欲しい。

今後も ICT 化等により業務の効率化を図りながら、保育の質を向上させて欲しい。